

第3回多治見市役所新庁舎検討市民委員会 会議録	
日 時	令和3年4月26日（月）午後1時30分～午後3時37分
会 場	多治見市役所本庁舎 2階大会議室
出席委員	小林甲一委員（委員長）、柴田錦見委員（副委員長）、佐藤喜好委員、田嶋義晋委員、加藤恒文委員、坂崎雄介委員、佐々木千裕委員、堀尾憲慈委員、今枝寛彦委員、小口英二委員、西尾英子委員
欠席委員	なし
事務局	富田総務部長、福田総務課長、古田課長代理、石田主査、佐藤主任、水野都市政策課長、藤田主査、堀尾建築住宅課長
傍 聴 人	18人
報道機関	5社
会議結果 要旨	
1. 「建て替え」の必要性について確認した。 2. 公共交通の維持、ICTを活用した行政改革、現本庁舎を移転した場合の跡地の活用、駅周辺・現本庁舎周辺・笠原地区をつなぐまちづくり等について議論された。	
会議録 要旨	
1 総務部長挨拶	
事務局	委員の異動について報告する。公募により選任された安部正一委員について、体調不良により第1回、第2回ともに欠席であった。体調が回復次第の参加を期待していたが、体調の回復が見込めないということで辞職の申し出があった。ついては3月31日付けで辞職としたため報告する。現状、公募委員が1人欠員となっているため、あらためて公募の手続きをとる予定である。
2 議事 委員長	駅周辺のまちづくりと現本庁舎周辺のまちづくりをテーマに意見交換を行う。時間に余裕があれば前回までの論点整理、意見交換をおこなう。次回以降は、論点整理を中心に踏み込んだ議論を進めていく。 今回、駅周辺と現本庁舎周辺のまちづくりについて議論するにあたり、新庁舎の立地の問題がある。重要な問題であるうえ、意見が狭まるので委員会として立地をどちらにするか決めるつもりはない。委員会に求められるもの、役割として、立地を決めることではなく多様な議論をすることが重要である。ただし、発言の趣旨が立地に絡めば、意見を言うて頂くことは構わない。基本的には、現時点では駅北庁舎隣接地と現本庁舎以外の土地に新庁舎を建てる可能性はないということを前提に今回の議論を進めていきたい。 それでは、「駅周辺のまちづくり」について事務局から説明をお願いしたい。
(1) 「駅周辺のまちづくり」について事務局資料説明	
事務局	(資料1に沿って説明)
委員長	質問、意見はあるか。
委員	駅周辺のまちづくりについて、市全体が活性化されないと、駅周辺が発展するとは限

	らない。ポイントは交通網の拡充である。公共交通の拡充を行い、車がなくても域内の移動ができるようにすること。路線バスを動脈として、現在4路線あるコミュニティバスを毛細血管のように張り巡らせることで、人の流れができ、まち全体が活性化する。車の移動だけでは限定的にしか活性化しない。人が出歩くようにするには現在の4路線に限らず、多治見市全域を走るようなコミュニティバスが必要である。費用がいくらかかるか不明だが、まちが生き残るための社会的コストのひとつであると考えてる。
委員長	交通網の整備については前回の委員会でも質問があった。本日の議題3の「前回までの論点について」のところで具体的にご意見いただければと思う。
委員	様々な機能を設置し、そこをつなぐ公共交通の必要性はあるが、つなぐものとしてハード面の整備のみならずソフト面の取り組みをすることで、賑わいをつくり、人の流れをつくることができるのではないかと。コンパクトシティの政策の中で歩けるまちづくり、道路空間の活用が進んでいる中で、箱をつくるだけではなく機能させる仕組みをつくる必要があると考える。
委員長	ふたりの意見をまとめると、多治見市は公共交通機関と車の選択肢がある。しかし現状は、車で目的地に向かい用事が済むと帰宅する人が多数である。ソフト面でつないでいけば、半日あるいは1日楽しむことが出来る。公共交通機関が充実していれば、車を置いて、バスに乗って移動したり、歩いたりという流れが市内にできる。しかし公共交通機関が充実しても、駅北には駐車場もあり車が便利と考える人もいる。そのバランスを考える必要がある。現在、駅北は非常ににぎわいが出てきているが、そこで注意すべきは、商業施設が必要なのかということ。全国で失敗事例もあり、誘致したけど入らない、すぐ出ていき空きテナントが出来てしまう。駅南に商業施設がある程度入ってくるし、イオンができる可能性を考えると、駅北から車で15分ほどの比較的近い距離であるため、駅周辺のまちづくりはそのことも考慮しなければならない。ただの乗り換えだけでなく駅周辺で楽しめる仕組みづくりが必要ではないか。
委員	市庁舎が駅北で一本化した場合、にぎわいづくりも重要だが、仕事で何度も足を運ぶ、書類を届ける回数を減らすことによって、一般の人が足を運びやすい中心街になるのではないかと。ICTの活用、ペーパーレス化を進めて、業者が市役所へ出向く回数を減らすことも快適さのひとつではないか。せっかく本庁舎を建て替えるのであれば、ICTを進めてほしい。ICTの取り組みについて、どのように便利になるのか聞きたい。
委員長	前回の委員会でも行政改革やICTの話題があがった。今回の後半以降の論点整理で議論したい。
委員	駅周辺が便利になれば、市民の感覚として、多治見は名古屋が近く多治見駅を経由して名古屋へ出かけてしまうのではないかと危惧する。多治見駅周辺に望むのは多治見らしさである。名古屋や周辺地域とは違う多治見らしさがあれば、人が多治見に留まり、買い物やまちを楽しめるのではないかと。
委員長	名古屋は近いとはいえ、高蔵寺まで電車で12分ほどかかる。そのことを考えれば、多治見で過ごそうかという人がいてもいい。なぜ多治見に住んでいる人がいるかというと、やはり名古屋にも近く便利だからである。そのバランスが大切である。

委員	駅周辺がにぎわうのは良いことであるが、実際に生活するときは自宅周辺が中心である。すこし外出したいなら名古屋へ出かける。生活していくなかでの頻度を考えると、自宅周辺にでかけることが圧倒的に多い。駅周辺のにぎわいの兼ね合いを考える必要がある。路線バスも減っており、少しの移動距離なら車で行く方が便利である。日常生活に必要なことは自宅周辺で済むようなまちづくりの目線も必要であると考えている。
委員長	人の生活スタイルや世代によって変わる難しい話である。市民の構成も変わってきており、将来的にどのようなまちにしたいかがかかわってくる。市外から移住してきた人が増えており、昔から多治見に住んでいる人と駅周辺のマンションに住んでいる人の多治見に対する思いは違う。なぜ多治見に住んでいるか、今後どうしたいか、どのような生活をしていきたいか、より多くの人が望む市の将来像、駅周辺のまちづくりプランが大切である。
委員	コンパクトシティを目指しているが、車がないと生活できない地域があるのが現実である。コミュニティバスを走らせて様々なところへ行けるまちづくりが必要だと思う。近い将来、どんな場所に人々が集まるかという点、利便性・情報・快適さ・楽しさ・文化が集まる場所であると思う。そのような中で楽しく住みやすい、若い人が活躍できるまちをどのように目指していくかを、市全体も含めて駅周辺のまちづくりを考えることが重要ではないか。今後、税収は増えないと思うが、そのつけは次の世代にかかってくる。時代の移り変わりも早く、一気に進んでいくことも考慮して進めていってほしい。
委員	駅南再開発は、土地代が高く、商業施設のテナント募集に応募してくる企業が少ないため、苦勞していると聞いている。現状、飲食店がなく、飲食店が駅南にできないと活性化していかないと思っている。どのようにして駅南が盛り上がるようなテナントを誘致するかが大きな課題となっている。仮に本庁舎の移転が検討されている駅北の土地に商業施設を建てた場合、企業側からすると立地は良いが駅南同様土地代が高く、テナント募集に応募してくる企業は少ないと思われるので、駅北に本庁舎を移転するのはやむをえないのではないかと。 また、駅北の駐車場については、公営は民業を圧迫するので、民間を利用した方がよい。
委員	多治見市の昼間人口と夜間人口、平日人口と休日人口が知りたい。飲食店は夜間営業が多いように思う。名古屋から多治見にくる人は夜間に飲食店はいかない。昼間と夜間、平日と休日の人口構成によってどのようなまちづくりを目指していくか考える必要がある。
事務局	統計担当に確認している。本日中に回答が出来なければ、次回回答する。
委員長	次に「現本庁舎周辺のまちづくり」について事務局から説明をお願いしたい。
(2) 「現本庁舎周辺のまちづくり」について事務局資料説明	
事務局	(資料2に沿って説明)
委員長	質問、意見はあるか。

委員	駅周辺と現本庁舎周辺のまちづくりを分けて考える必要はないのではないか。多治見市の大きな課題のひとつに、少子化がある。まちづくりを考えるにあたり移住定住促進の視点も必要ではないか。まちの魅力として大きいのは、生活の利便性と交通の利便性、自然環境の良さや歴史遺産の素晴らしさがあるが、ひとつ欠けているのではないかという視点が文化の視点である。生活や交通の利便性は他の自治体も力を入れており、まちの魅力、強みは文化に出てくるのではないか。では文化とは何かといえ、芸術、音楽、芝居、映画、食、歴史、伝統というように、実は現本庁舎周辺は文化の担い手という大きな役割があると思う。本庁舎が駅北に移転するのであれば、多治見の顔としての役割を駅周辺が果たし、現本庁舎周辺は文化の役割を果たす。多治見市の博物館、小劇場、交流センター等を建設し、現本庁舎周辺を多治見市の発展を担う場所として積極的に活用できないか。
委員長	日帰り観光も増えており、商店街もあるためいろいろなことができるのではないかと。市内には様々な資源が多数あり、それを活用して現本庁舎周辺で何かできるのではないかと思う。
委員	防災の観点から言うと、近年、災害発生時の高齢者の方の救助とその後の生活支援が問題になっている。道路が寸断されれば行政の手が行き届かない地域が発生する可能性もあり、その場合高齢者の方々が復旧まで一人で生活せねばならない状況になる。市の郊外に住まわれている方が、防災を考えて、比較的まちの中心地に近いサービス付き高齢者住宅へ移住をして生活するということができれば、緊急事態への対応もできる。様々な意見があると思うが、現本庁舎の広い土地と、周辺の商店街があれば、今までの慣れ親しんだ土地ではないが文化を感じながら生活できる一つの方法ではないか。敷地を別用途に活用するのであれば、サービス付き高齢者住宅や集合住宅を建てるのも一つの活用方法である。
委員長	現本庁舎周辺からコミュニティバスを使い効率的に駅や病院へ行くことができれば、高齢者の方は暮らしやすい。若い方は郊外で暮らし、高齢者の方は現本庁舎周辺で暮らすということが、今後の20年、30年でできれば、世代間の移転がうまくいく可能性があると思う。
委員	多治見在住の人が名古屋に出かけてしまう可能性があるという話をしたが、逆に名古屋の方から多治見に来ていただけたとも考えられる。例えば現本庁舎周辺で行われている陶器まつりでは、名古屋の方から電車で多治見へ来た知り合いから、「駅南から橋を渡り、現本庁舎周辺へ歩いたが、とても良いまちだ」という声をきいた。建物も大切だが、イベントを通して人が人を呼ぶという意味での駅の役割を考えることも大切だと思う。 文化の側面を考え、笠原にもモザイクタイルミュージアムがあり、笠原から駅南への人の流れをつくるという視点で跡地の活用を考える必要もある。駅北と駅南を分けて考えるのではなく、繋いでいくことを考え、駅を通して人の流れを多治見に呼ぶまちづくりを考えることも必要だと思う。

委員	駅周辺と現本庁舎周辺をわけて考える必要はないと思う。オリベストリートもにぎわってきており、やくならマグカップも等を活用して駅南から現本庁舎周辺へ歩く人の流れをつくってあげればよい。駅北周遊コースと駅南周遊コースと両方考えてまちづくりできればよい。駅北には修道院や永保寺があり、名古屋近辺から人を呼び込んでいく。個人としては、本庁舎は駅北へ移転し、現本庁舎の跡地を新しい観点で活用し、まちづくりをして頂きたい。
委員	敷地を別用途に活用することと現在の建物を別用途に活用することは、別に考えるのではなく、一時的に現在の建物を利用し段階的に敷地利用に変えていけばよいのではないかと。例えばサービス付き高齢者住宅として活用することで、市内に住んでいた方のみならず、市外の方も移住して下さるかもしれない。在住者の人口を増やすことと、観光スポットとして活用し、日中人を呼んでにぎわいを形成することとどちらがまちにとってよいのか現時点ではわからない。5～10年耐えうるように改装し、リモートワークの方が利用できるシェアオフィスとして活用するなど、ゆるやかに移行していくことが財政的にもよいのではないかとと思う。
委員長	よい意見である。いろんな所でこれくらいの建物をリノベーションして使っているで、何かできるのではないかとと思う。
委員	多治見市を外からみたとき、名古屋からも近く立地条件としては非常に良いと思う。多治見市に観光地がどれだけあるかと考えたとき、虎渓山・永保寺があるが、陶器・美濃焼・タイルも見方をかえればどれも観光資源となる。 多治見で店を出したい方はいるが、住まいがないということがネックになっているので、インフラ整備と空き家対策をして移住者を増やしていく必要があると思う。 現在、コンパクトシティの一環で様々な建物を壊し、その機能を一つの建物に集約しているが、まだ使用できるような建物は整備しながらどんどん利用して人が集まるようなまちづくりができれば活性化していくと思う。 若い人は教育・学校設備が充実しているまちを選ぶと思う。 本庁舎のことだけではなく、ほかにも考えるべきことが多数あると思う。
委員長	多治見はまちの品や香りが残っている。多治見には駅前だけではなく、現本庁舎周辺があり、ここには昔の街並みが残っている。駅から川を越え離れていることが現本庁舎周辺の弱点であったが、上手く点と点を結べば価値が生まれる。そこがこの場所の重要なところであると思う。便利だからといえ、高齢者の方も駅前に住むよりは、少し離れたこの場所に住んだ方が落ち着けるのではないかとと思う。循環移動としてこの場所にも価値が出ると思う。
委員	ビジネスプランコンテストでグランプリを受賞した方々が立て続けに出店をしており、多治見のまちを変えていく取り組みをしている。このエリアは古い建物や、レトロなタイルの貼ってある建物、趣のある建物等、ここで店をやりたいと思わせる魅力を持っている。今後もこのエリアで出店する人が増えてくると思う。それも踏まえ跡地の活用法を考えるとよいのではないかと。シェアオフィスの話もあったが、例えば現本庁舎の建物をそのままホテルとして活用し、市長室に泊まれるというようなアミューズメント

	的なホテルとするなど突拍子もないアイデアも含めて様々な可能性がある。
委員長	ほかに意見はあるか。 質問、ご意見がないようなので前回までの議論であがった話題について、事務局に説明していただく。
事務局	その前に、先ほど質問があった昼間人口と夜間人口について回答する。平日人口と休日人口については統計資料がなかった。昼間人口、夜間人口については平成 27 年の国勢調査のデータが最新で、夜間人口 110,441、昼間人口 97,949 人である。
委員長	昼間人口と夜間人口の人数は途中で逆転しているのか。
事務局	現在手元にある平成 7 年からのデータでは、一貫して、夜間人口が常に上回っている。国勢調査のデータであるため、更にさかのぼって数字を出すことは可能である。
委員	年齢別のデータはあるか。
事務局	年齢と昼夜間人口のクロスデータはない。
委員	どの年齢層をターゲットにするかにより、どのような政策をするかも変わってくる。
事務局	人口ピラミッドについて、前回の議論であがったので次回までに用意する。
(3) 前回までの論点 (「多治見市の将来像と新しい市庁舎構想」「新庁舎に求められるもの」) について事務局説明	
事務局	(資料 3 に沿って説明)
委員長	質問、意見はあるか。 それでは、論点整理は次回また議論を続け、これまでの内容を整理して中間報告にむけて議論を進めていく。あらたに本日の意見、前回までの話を踏まえて論点整理を宿題とし事務局には対応をしていただきたい。 最後に今後の予定として、論点整理を行い、2 回ほど議論を重ね、大きく分けて「多治見市の将来像と新しい市庁舎構想」、「現本庁舎の建て替えの必要性」、「新庁舎に求められるもの」、「駅・現本庁舎周辺のまちづくり」の 4 点を重要な項目とし、これらをまとめた形での中間報告になるかと思う。 中間報告に向けて論点整理をしていくなかで重要なことは、現本庁舎建て替えの必要性について確認をしたうえでないと議論の意味がなくなる。本委員会としては建て替えの必要性については事務局側の説明に沿い十分に確認したということで議論を前に進めたい。よろしいでしょうか。それでは、そのように進めていく。
委員	最後に一言。前回の議論で駐車場の必要性を訴えたが、調べたところ、現在の駅北立体駐車場のほかに駐車場をつくる予定であることを知った。土地を購入する訳ではなく借りるということで、年間 1,400 万円の借地料、4 億 5,000 万円の建設費用、800 万円の運営費がかかる。毎年 2,200 万円は最低でも維持費がかかる。それだけの予算があれば他にできることがあるのではないかと思い、市役所に足を運ぶ回数を減らす ICT の取り組みが必要であると考えた。
委員	前回の議論で課題として庁舎の建物をリースできないかと提案した。調べたところ淡路市は庁舎の建物をリースしている。ただし、問題点はリースにすると補助金不能使用できない。淡路市はなぜリースを採用したのか、リースでも補助金を利用できる方

	法はないかを考えないといけない。資金調達に時間がかかるので、それについて勉強する必要がある。
委員長	本日の議論で共通しているのは、多治見のまちづくりは大きな転換点を迎えており、そのなかで新しい庁舎をどのようにするかは非常に重要な問題である。そこも含め議論していく必要がある。
3 次回以降の日程	
事務局	次回の日程について、6月14日（月）午後1時30分から本庁舎2階大会議室で開催を予定してよろしいか。 ご了承いただいたので、予定どおり行う。 会議録は調製が出来次第、郵送により各委員へ確認を取らせて頂く。 それではこれで本日の委員会を終了とする。